

宛 先 新潟県選出全国会議員、全県議会議員  
県内全市町村長、県内全市町村議会議長等

平成16年10月 1日

様

加茂市長 小池清彦

拝啓

秋も深まって参りました。益々御清祥のことお慶び申し上げます。

さて、このたび新潟県は、加茂市長に何の協議もなく、10月1日を以って一方的に県立加茂病院の産科を休診いたしました。

その結果、加茂・田上地域に産科病院は1つもなくなり、この地域の住民の安全と安心は、大きく脅かされることになりました。

少子化は、わが国における最大の問題であり、国も県も少子化問題に最も真剣に取り組まなければならないときに、平山知事は、冷酷にも、こともあろうに退職直前に、一方的に加茂病院産科を実質的に廃止いたしました。

これが平山県政の総決算であります。

加茂市とその周辺地域一帯の産科で、病室が個室でないのは、加茂病院の産科のみであります。このただ1つの理由のために、来院者が減って来ると、個室化の努力を何もしないまま、来院者の減少を理由に、産科を実質的に廃止してしまったのであります。

現在加茂病院以外の県立病院で産科があるのは、坂町病院、新発田病院、がんセンター、吉田病院、小出病院、六日町病院、十日町病院、上越中央病院であり、8つもの多数にのぼっております。産科が置かれていないのは、性格の違う瀬波病院を除けば、津川病院、柿崎病院、松代病院、妙高病院の4つにすぎません。このうち、津川病院と柿崎病院の2つは、平成12年に

平山知事によって廃止又は休診となったものであります。

これだけ多くの県立病院に産科があり、新潟大学医学部産婦人科がこれをバックアップする体制がとられているときに、加茂病院産婦人科を休診するということは、全く理不尽なことであります。新潟大学も一緒になっての工夫と医師のやりくりで、対処できるはずであります。

私はこのたびの冷酷なる県の暴挙・暴政に別添の抗議声明を発出いたしました。

また、このたびの暴挙は、県民に対する愛情を欠き、冷酷にして悪しき県政のシンボルのようなものでありますので、このたびの県知事選の全候補者の皆様に、「県立加茂病院の産科の診療をすみやかに再開する御意志がおりかどうか」質問書を差上げた次第であります。

貴台におかれましては、私達の窮状と県政の惨状を御理解下さいまして、何とぞよろしく御支援下さいますよう心からお願い申し上げます。

敬具